

Asia Indicators

発表日: 2023年6月16日(金)

オーストラリア: PMI(23年5月)

～利上げの影響からサービス業の拡大ペースが鈍化、サービス業のさらなる価格上昇に注意～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 阿原 健一郎(Tel: 050-5470-4868)

5月のオーストラリア総合PMIは51.6と節目の50を上回った。4月に引き続き50を上回り景況感は拡大したものの、拡大ペースは鈍化した(4月53.0)。各項目をみると、製造業PMIが48.4(4月48.0)と引き続き50を下回って推移した一方で、サービス業PMIが52.1(4月53.7)と引き続き50を上回り推移したものの、その拡大ペースは4月から大きく鈍化している。サービス業の減速が総合PMIを下押しした形だ(図表1)。

オーストラリアの製造業は、国内の財需要の減少に加え、グローバルな製造業の景況感が悪化するもとので、引き続き縮小した。製造業PMIについて構成項目を確認すると、新規受注指数、生産指数、原材料在庫指数が引き続き50を下回って推移している状況に変わりはない。財需要が減少するもとので、サプライチェーンが正常に機能しており、サプライヤー納期指数が50を上回って推移していることも、ヘッドラインを押し下げる要因となっている(図表2)。

オーストラリアのサービス業は、5月2日のRBAのサプライズ利上げ(+25bps、3.60%→3.85%)の影響もあり、拡大ペースは鈍化したものの、引き続き拡大した。サービス業PMIについて各項目を確認すると、新規受注指数、雇用指数、価格指数が引き続き50を上回り推移している(図表3)。雇用指数は、拡大ペースが4月から大きく鈍化したものの、労働市場の逼迫が緩和されつつある兆し、というわけではなさそうだ。6月15日公表の5月雇用統計では、雇用者数(季節調整値)が前月差で+7.6万人増加し、雇用は拡大している。失業率は3.6%(4月3.7%)と、前月から幾分低下しており、実勢として労働市場の需給に緩みはまだ見られていない。また、価格指数を見ると、製造業のそれと異なり、投入価格指数と産出価格指数の間に大きな開きがある。サービスセクターでは、まだコストの増加をサービス価格に十分に転嫁し切れていないと考えられる。既往の金融引き締めにより需要が下押しされるなかで、コストを全て価格転嫁できるわけではないが、今次局面では、サービス業の動向が今後のインフレ率を大きく左右するため、価格指数の動きには注視していく必要がある。

先行きは、製造業では、新規受注が引き続き縮小していることから、縮小傾向が続くと予想される。サービス業は、6月6日にRBAが追加利上げを実施しており(+25bps、3.85%→4.10%)、家計の圧迫による需要の下押しを通じて、拡大ペースは鈍化していくと予想される。

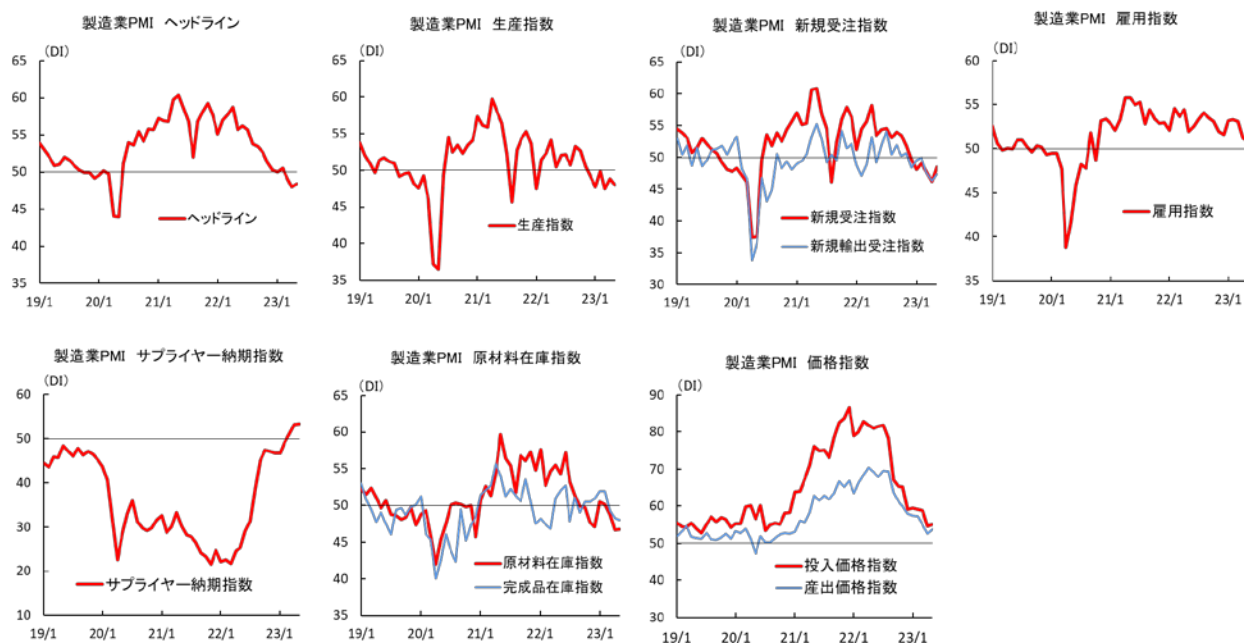
【図表1】オーストラリアのPMI

	四半期				月次			
	22/3Q	22/4Q	23/1Q	23/2Q	23/2月	23/3月	23/4月	23/5月
総合PMI	50.7	48.4	49.2	52.3	50.6	48.5	53.0	51.6
製造業PMI	54.3	51.4	49.9	48.2	50.5	49.1	48.0	48.4
サービス業PMI	50.6	48.1	49.3	52.9	50.7	48.6	53.7	52.1

(出所) S&P Global

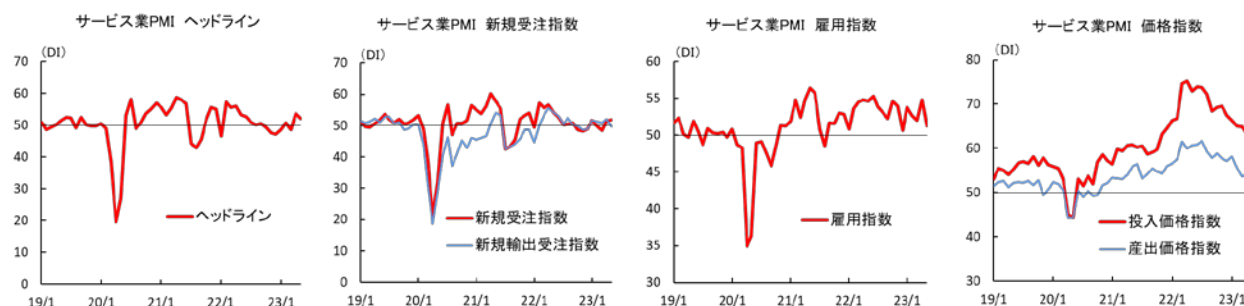


【図表2】製造業PMI



(注)直近はいずれも5月。
 (出所) S&P Global

【図表3】サービス業PMI



(注)直近はいずれも5月。
 (出所) S&P Global

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任を負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。